

令和6年度 第53回関東甲信越地区退職校長会連絡協議会栃木大会

1 協議題 人との繋がりを大切にし、活動が見える退職校長会を目指して ～明るく豊かな生き甲斐のある人生を送るために～

2 協議題設定の趣旨

長く続いたコロナ禍により、私たちは「普段の日常生活が送れない」という毎日を過ごしなが
ら、ようやく感染収束の時を迎えた。その間、退職校長会の諸活動も中止や変更を余儀なくされ、
活動の停滞とともに入会者の減少・中途退職者の増加などの問題が顕在化してきた。加えて年
金支給年齢の繰り上げと60歳定年制の延長、役職定年制の導入などにより、今以上の入会者減
に繋がることも危惧される。

こうした問題を払拭し、退職校長会の活動を活性化させ、会員にとって「明るく豊かな生き甲
斐のある人生を送るための退職校長会」となることを目指すために、次の2点を上げたい。

- ① 退職校長会は、人との繋がりを大切にし、豊かな人間関係が築ける会であること。
- ② 退職校長会の活動は、わかりやすく共感や賛同できる事業であること。

退職校長会は幅広い年齢の会員が所属し、その考え方、趣味・趣向、生き方まで多様である。
会員が一堂に会して活動することは難しいが、その活動内容はひとりひとりの会員に周知され、
様々な会員の集まりの中で、工夫を凝らした活動が展開されることで、人との繋がりを通して「楽
しかった」「ためになった」「また参加したい」といった声が生まれ、豊かな人間関係が築けるの
ではないか。

また、現役世代との交流や学校支援、退職間もない会員の役員登用、地域社会への社会貢献
活動等を退職校長会の中に積極的に取り入れることも、人との繋がりを大切にした豊かな人間
関係を築く上で大切である。

そこで留意したいのは、退職校長会の活動が会員にとって魅力的なものでなくてはならない
が、その活動内容・目的が抽象的なものでなく、具体的であり、よく理解され、参加したいと思え
る活動、参加が無理であっても共感や賛同できる活動であることが求められる。

栃木大会では、コロナ禍後の退職校長会の活動を展開するにあたり、退職後のライフワークが
物心両面で大きく広がってきている昨今の状況を踏まえ、「明るく豊かな、生き甲斐ある人生を
送るための組織であること」を、会員にとって必要な退職校長会であると捉えて、以下の共通課
題を設定し、各都県の現状や取組みについて情報交換を行い、より具体的な協議と情報の共有
化を期待したい。

3 共通課題

- (1) 入会者の減少・中途退会者の増加等の問題の対応、加えて本年度からの役職定年制にあ
たってどのような対策をとったか。
- (2) 現役世代との交流活動や学校支援活動として、どのようなことに取組んでいるか。
- (3) 地域社会への社会貢献活動としてどのように取組んでいるか。
- (4) 会員相互の交流活動としてどのような活動に取り組んでいるか。

- 会員数;約 3582 名(令和 6 年 7 月現在)10 支部57班で構成
- 役員:会長、副会長(8)、事務局長、監事(3)、支部長(10)
- 本部(研究調査部・福利厚生部・広報部・庶務会計部)の事業(総会、支部長会、理事会、専門部会、幹事会、県等への要望活動、現職退職校長教育推進協議会、現職退職校長役員研究協議会、会員の慶弔「長寿祝賀・荣誉祝賀・物故者弔慰」等及びホームページの活用拡大充実

1 人との繋がりを大切にし、豊かな人間関係を築ける活動へ【主題を目指す視点 1】

人との繋がりには 2 つの性質があるという。安全基地性(困ったときに、ありのままでいられる基地)と探求性(実現したい共有の目標がある仲間)。その人との繋がりを重視するのは良好であると社会的欲求が満たされ、精神的な充実感や満足感を得られ、新たな挑戦を支えるという価値も有しているからである。退職校長会という組織に置き換えれば、支部や班の内部で、あるいは支部や班同士の間での協力関係に「信頼」や「お互い様の精神」といったものを含む集団を円滑にする協調性が含んでいる。つまり、人との繋がりを大切にする意義は、地道な信頼関係づくりの継続ではないか。

(1)

。

2 退職校長会の活動は、わかりやすく共感や賛同出来るものへ【主題を目指す視点 2】

3 生き甲斐のある人生を送るための退職校長会 (信頼関係づくりと活動の活性化と継続へ)

生き甲斐を生きる「張合い」とすると、その中身には「他のためになる・役立つ・充実感・達成感・満足感」といった自分自身に肯定的な感情が見いだせる。このような「張合い」を退職校長会の活動や会議・事業等に関わることによって抱き、人との協調性が深まり充実へとつながっていく。はじめに顔見知りになったからと直ちに張り合いが充実したものになるのではないが、継続して活動することが信頼や挑戦や役立ちたいなどの張りへと進んでいくと思われる。そのためには、地道な信頼関係づくりを継続することが必要である。役職定年制の折、会員は自己の強みやおもしろさを感じず活動を見出すとともに退職後の人との繋がりの大切さを再発見することを期待したい。

4 今後の課題(信頼と継続)

○退職校長会の丁寧な一人一人との信頼関係づくり

○活動の活性化と継続化へ

「話題にしたいこと ②」

○各支部・班:研修旅行、懇親会、趣味活動(書道、絵画、工芸、囲碁、写真、ゴルフ、釣り、文学散歩、ウォーキング等々)